

# 認知症者へのオンライン診療における 質の検討と家族経験価値の研究

西尾 美登里 ●日本赤十字九州国際看護大学 講師



オンライン診療を受けている療養者さんと家族

## 1. 背景と目的

厚生労働省が発表した「保健医療2035の提言書」では、量の拡大から質の改善、インプット中心から患者にとっての価値中心、ケア中心からケア中心へとされ、地域住民を支える生活の継続への医療へとギアチェンジが述べられている。認知症が増加する中、患者経験価値を高める取組みが高まると、地域医療の質も向上すると予想される。

### ○既存の患者満足度調査とこれからの患者・家族経験価値調査

病院で実施されている既存の患者経験価値と同じ内容を問い医療サービスの内容を測定する。認知症の患者と家族の満足度が測定しやすく、今後ますます必要とされる地域・在宅医療における今後のあり方や、病院との医療との比較につなげやすいメリットがあると考えられる。

### ○オンライン診療

高度な医療を必要とするような重症患者は減少し、リハビリや介護を含めた長期的な医療が必要な、高齢患者や家族の医療需要が高まると考えられる。オンライン診療は交通アクセスが整えられない患者や家族にも、感染症対策にも有効だと思われる。しかし、自由診療でのオンライン診療が目立ち、ルールの枠外での利用が中心となることが懸念されている。そのような中、保険診療での質の確保を行いながら、対面診療

と組み合わせ、適切にオンライン診療を利用した実践が拡大していくことが期待される。

### ○医療の質

国は地域医療を充実させる「地域医療構想」を掲げ、病院再編や病床機能の転換を進めるよう地方自治体に促しているが、病院数や病床数の縮小には至っていない。医療の質向上とともに病院再編の課題が叫ばれる中、都市部や地方の病院においては、交通アクセスが整えられないまま、病院が無くなったり、病床転換を推進したりすることは、非現実的であると考えられる。そのような社会事情の中、オンラインによる診療への期待が高まっている。以上を踏まえた当研究の目的は、オンライン診療における質の検討と、家族経験価値を明らかにすることである。

## 2. 取組みの方法／期待される成果

当研究では、地域・在宅医療としての①オンライン診療、②訪問診療、③外来診療における、診療の質の同等性と、それぞれの診法における、家族経験価値を明らかにする。対象人数は、オンライン診療10～20名、訪問診療20名、外来診療20名とする。

地域在宅医療の質の担保として、患者・家族を対象としたサーベイが進み、家族満足度を含めた医療サービスの質の保証を示す指標が確立される。

※写真掲載に際しては、ご本人・家族の了解を得ています。